



(独)住宅金融支援機構

(出典・引用) (独)住宅金融支援機構 [https://www.jhf.go.jp/files/topics/8470\\_ext\\_20\\_0.pdf](https://www.jhf.go.jp/files/topics/8470_ext_20_0.pdf)

## フラット35、申請戸数が6年ぶり増の5.7万戸に

住宅金融支援機構は、25年度のフラット35の申請戸数などをまとめた。フラット35全体の申請戸数は5万7,380戸で、前年度比41.9%の大幅な増加となった。

	2025年度	2024年度	対前年度比
申請戸数	57,380 戸	40,442 戸	141.9 %
実績戸数	36,715 戸	27,917 戸	131.5 %
実績金額	12,184 億円	8,828 億円	138.0 %

※2025年度において、借換えを除いた申請戸数は55,694戸(139.4%)、実績戸数は35,404戸(128.7%)、実績金額は11,877億円(135.8%)です(括弧内は、対前年度比)。

目立ったのは借換への増加で、借換申請件数は1,686件(前年度比+244.1%)。前年度の490件から3倍超の伸びを示した。借換の実行件数は1,311件(+219%)。金利の上昇を背景に、変動金利型から全期間固定金利型のフラット35に変更する人が増えている。

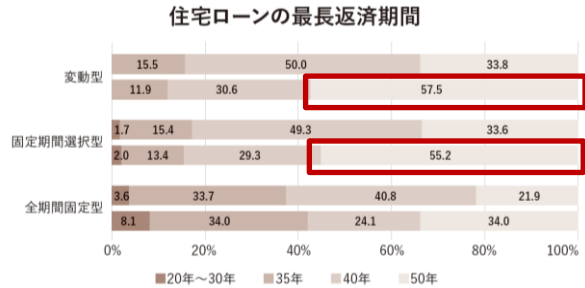
また一方で

(参考) HousingTribuneOnline <https://htonline.sohjusha.co.jp/723-022/>

## 住宅ローンの返済長期化が加速 変動型と固定期間選択型で「50年」が6割弱に

住宅価格高騰、地価上昇などを背景に住宅取得環境が悪化しつつあるなか、住宅ローンの返済の長期化が指摘されている。建設費や購入費が予算を上回った場合、住宅を小さくしたり、建設場所を希望地よりも遠くにしたりといった対応が必要になるが、もう一つ、住宅ローンの返済期間を長くして月々の返済額を低く抑えるという選択肢がある。

「2025年度 住宅ローン貸出動向調査」で、最長返済期間(当初借入時)が「50年」が大幅に増加、6割に迫る割合に高まったことが分かった。



みらいエコ住宅2026事業

### GX志向型住宅 セキュリティの高いHEMS導入必須

「みらいエコ住宅2026事業」において、「GX志向型住宅」の補助要件が一部見直された。HEMSを導入する際、情報漏洩やサイバー攻撃を防ぐ高いセキュリティ基準を満たした機器の採用が新たに要件となり、今後、建築確認申請書の提出日が2026年7月1日以降の住宅は、JC-STAR★1以上の適合ラベルを取得した「HEMSコントローラ」が必須となる。



(出典・引用)みらいエコ住宅2026事業 <https://mirai-eco2026.mlit.go.jp/news/2026042/>

(株)LIXIL

### 「陶器から陶器」への再資源化サイクル確

LIXILは、衛生陶器の国内主力製造拠点である榎戸工場内で発生する廃材(陶器片)を衛生陶器の原料として100%再資源化する技術を確認した。



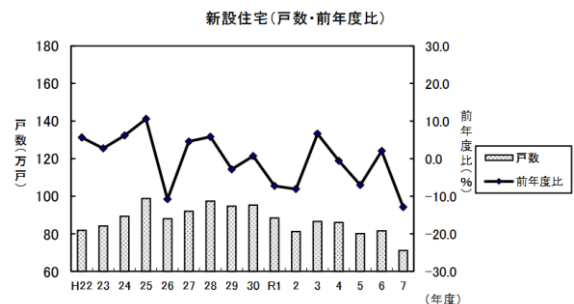
(出典・引用) (株)LIXIL <https://newsroom.lxil.com/ja/20260/>

国土交通

(出典・引用)国土交通省 [https://www.mlit.go.jp/report/press/joho04\\_hh\\_001367.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/joho04_hh_001367.html)

## 25年度住宅着工、リーマンショック後下回り71万戸

2025年度の新設住宅着工戸数は2年ぶりの減少となる**71万1,171戸(前年度比12.9%減)**。人口減少や物価上昇に伴うマインド低下、建築基準法・建築物省エネ法改正の影響で、リーマンショック後の2009年度(77万5,277戸)を下回った。利用関係別では、持家、貸家、分譲住宅の全てで減少した。





株式会社一条工務店は、現在子どもと暮らしている男女1277名を対象に、「子育てと住まいに関する意識調査2026」を実施しました。

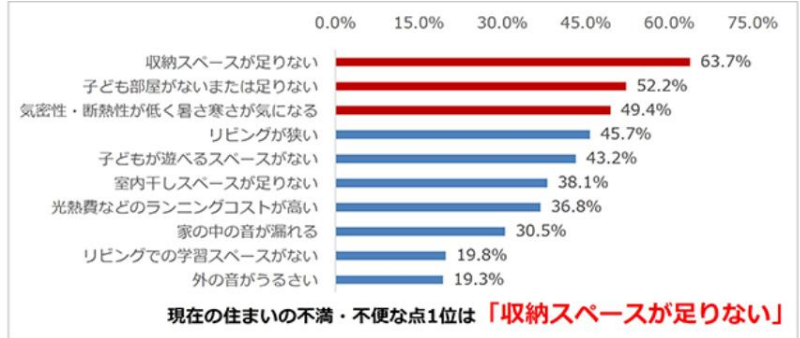
■ 調査概要

調査手法：オンラインアンケート  
調査対象：全国の男女

調査期間：2026年3月5日（木）～2026年3月11日（水）  
有効回答数：1277サンプル（回答：女性858名、男性419名）

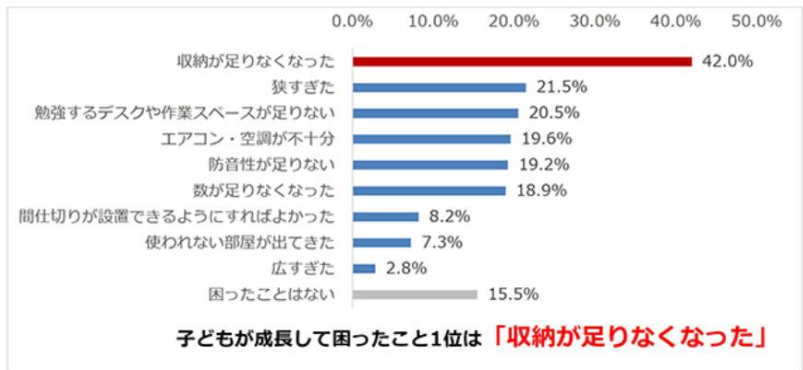
■ 「収納スペースが足りない」6割

具体的にどのような点に不満・不便を感じているかを尋ねたところ、「収納スペースが足りない」が63.7%で最多に。次いで「子ども部屋がない、または足りない」(52.2%)、「気密性・断熱性が低く暑さ寒さが気になる」(49.4%)が続いた。



<図5：子どもと暮らすうえで、現在の住まいで不満・不便な点 上位10項目>n=741 ※複数選択可

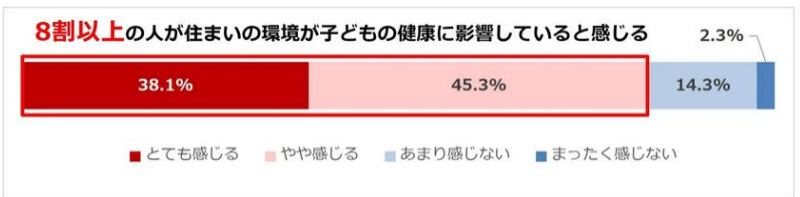
このうち「収納スペース」については、中学・高校・大学生の子ども部屋を対象とした調査でも、困ったことの1位となっている。子どもに個室を与えた理由についても、「子どもの荷物が増えたから」(34.2%)との回答が最多だった。



<図16：子ども部屋に関して、成長してから困ったこと>n=317 ※複数選択可

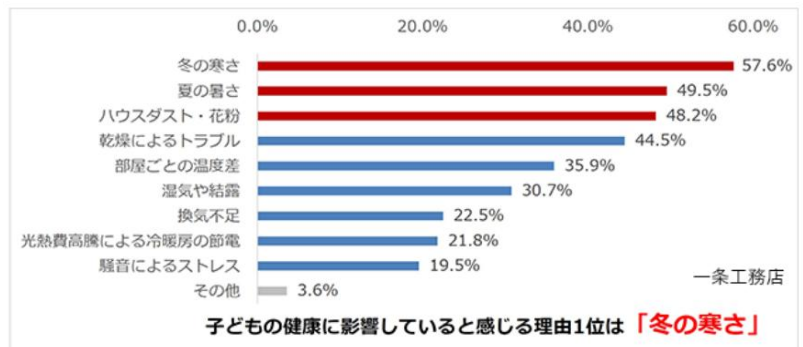
■ 子育てをする中で、住まいの環境が子どもの健康に影響

「子育てをする中で、住まいの環境が子どもの健康に影響していると感じることはありますか？」と尋ねたところ、「とても感じる」38.1%、「やや感じる」45.3%を合わせると、8割以上の方が、子どもの健康について懸念していることが分かった。



<図17：子育てをする中で、住まいの環境が子どもの健康に影響していると感じるか>n=1277

具体的にどのような点が影響しているかについては、「冬の寒さ」(57.6%)、「夏の暑さ」(49.5%)、「ハウスダスト・花粉」(48.2%)との回答が上位となり、現在の住まいへの不満「気密性・断熱性が低く暑さ寒さが気になる」にもつながっている。



<図18：住まいの環境のどのような点が、子どもの健康に影響を与えていると感じるか>n=1064 ※複数選択可